

令和4年度SDGs チャレンジフォーラム

(概要)

令和5年2月3日、今年度の探究学習活動の集大成となる「SDGs チャレンジフォーラム (探究学習発表会)」を実施しました。附属中生および高校1年生はポスターセッションを、高校2年生探究学習委員の生徒はオールイングリッシュによるプレゼンテーションを実施しました。

記

- 1 目的 SDGs の課題解決に向け、社会に貢献できるリーダーを育む
今年度の探究活動の成果発表の場とする
- 2 日時 令和5年2月3日(金) 2～6時間目
(午前の部) 高校2年生探究学習委員による英語プレゼンテーション
(午後の部) 附属中・高校1年生によるポスターセッション
- 3 場所 本校体育館
- 4 対象 附属中1学年全生徒(80名) 全20班
高校1学年全生徒(239名) 全60班
高校探究学習委員2学年生徒(33名) 全13班
- 5 助言者 早稲田大学 政治経済学術院 教授 有村 俊秀 氏

6 内容

令和5年2月3日、今年度の探究学習活動最大のイベントである「SDGs チャレンジフォーラム (探究学習発表会)」を本校体育館にて開催しました。この一年間の探究活動の研究成果の集大成として、附属中・および高校1年生はポスターセッションを、2年探究学習委員の生徒はオールイングリッシュによるプレゼンテーションを実施しました。

新型コロナウイルス感染拡大予防の観点から、今年度も一部の保護者だけを招いての開催となりました。



発表会の様子



オールイングリッシュでプレゼン



スライドも凝って作り込みました



生徒から積極的に質問



有村先生より助言を頂く



よぎ副校長より講評

(1) 高校2年生探究学習委員による英語プレゼンテーション

午前の部では、2年生探究学習委員の生徒33名(13班)によるプレゼンテーションを行いました。今年度は8月に実施した仙台フィールドワーク等での経験を基に、各種調査の結果をふまえながらSDGsの諸問題解決のための提案を示すことが出来ました。

また、オールイングリッシュによるプレゼンテーションに備え、生徒たちは研究成果をまとめると同時に、筑波大学生命環境系教授 堤純 氏の助言を頂いたり、(2022年12月20日英語プレゼンテーション実習)、英語教員から英語スピーチの指導を継続的に受けてきました。

発表会当日、生徒たちはこれまでの練習の成果をいかに発揮し、素晴らしい英語プレゼンテーションを行うことが出来ました。発表を聞いた附属中や高校の1年生からは、研究内容について次々と質問が出ました。

講師としてお招きした早稲田大学政治経済学術院教授 有村俊秀 氏からは、「もし英語の質問に対して答えに窮した場合には、“let me see・・・”とか“That’s a good idea!” などと言って間を繋ぎながら答えると良い」など、豊富な海外講演の経験に即した具体的なお助言を頂くことが出来ました。

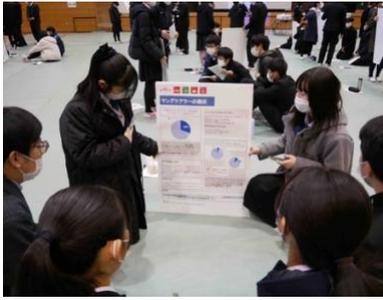
また有村先生に同伴して来校されたお二人の外国人助手の方や、よぎ先生からも英語で質問が飛び出すなど、今年の発表会は大変国際色豊かな発表会となりました。

外部の方から直接評価をいただくことが出来た事で、生徒たちにとって大変有意義な発表会となると同時に、貴重な体験となりました。

この後高校2年生の探究学習委員の生徒たちは、年度末に向けてそれぞれの探究の成果を研究論文にまとめ、3年ぶりとなる海外フィールドワーク(オーストラリア・シドニー方面)に臨みます。

(2) 附属中・高校1年生によるポスターセッション

午後の部では、附属中・高校1年生全員によるポスターセッションが行われました。4人一組80班(高校60班、附属中20班)に分かれた生徒たちは、様々な視点からSDGsの諸問題と向き合い、それぞれ独自の研究テーマを設けてこの一年間、調査・研究を行ってきました。今年度はコロナ禍も落ち着き、生徒たちはアンケート調査やインタビュー等のフィールドワークを充分に行うことが出来ました。また、大学生から客観的な指導を頂く「探究学習スキルアップ講座」の経験を積んだことで、研究成果を一枚のポスターに分かりやすくまとめ上げることが出来ました。



研究をポスターにして説明



ポスターセッションの様子



時間を決めてローテーションします



中学生も一緒に説明



他のクラスの生徒に説明



校長先生から講評

7 生徒の感想

(英語プレゼンを終えた高校2年生より) ※一部抜粋

○みんなのプレゼンが探究委員会内で一度発表した5分間プレゼンよりも、はるかに洗練されて進化していたのでびっくりしたが、たくさんの刺激を得られた。欲を言えば、できたかは別として英語での質疑応答もやってみたかった。

○去年英語プレゼンを聞く側として参加した時はあまり面白く感じなかったが、今年プレゼンする側として参加し、英語でプレゼンをするのがいかに大変か分かった。日本語のプレゼンよりも原稿が覚えやすく、英語力がないと日本語プレゼンと違ってアドリブも効かないのでとても緊張した。今回は準備をしっかりと、良いプレゼンができたと思うのでオーストラリアではもっと良いものになるようにしたい。

○探究委員として参加したが、一つの大舞台として今回の発表会をやり抜くことができ、とても安堵している。スライドやプレゼンの内容、プレゼンの魅せ方をもっと改善できると思うので有村先生や生徒の方々からいただいた貴重な意見、感想を基に次のオーストラリアでのプレゼンに活かしていければ良い。

○みんなの前でプレゼンをする、いい体験ができた。万全の対策をしてきたので、個人的には完璧にできた。3月に向けて今度は予想される質疑に対して適切な英語で返す練習をしていきたい。

○今回の探究学習発表会では、学習の内容を発表し、ご講評をいただくことができるという、貴重な経験をすることで、より深い思考に繋がり、大学生になったらより深く、より実用的に詳しく調べられると思ひ、大学生になるのが楽しみになった。

○ああいう場に立つことも少ないため、とても良い経験となった。途中で思いついた発表の方法なども柔軟に取り入れることができよかつた。あとはもう少し自信を持って発表する必要があると感じた。

○今まで自分達が準備してきた研究の成果を大きな舞台で披露できたし、他のグループの成長具合も実感できてとても良い経験になった。視聴者の質問を理解し、それに的確に答える、という瞬間的な判断力や理解力がこれからは試されると思つた。初めて自分達のテーマを知る人にもきちんとわかる

ようなプレゼンをできるようにこれからも努力を続けたい。

(ポスターセッションを終えた高校生および附属中1年生より) ※一部抜粋

○興味がある話は後でドライブにあるのを見れば良いと思っていたが、実際聴いてみると、直接でなければわからない内容もあると感じた。

○発想はあっても、フィールドワークに限りがあり、断念してしまうことが多いと感じたので、そこで探究が止まってしまう。考えることをやめてしまうことなく、探究を考え続けられたら面白くなるんだろうなと思った。

○高校2年生の先輩方の発表を聞いて、他者に興味を持たせ、巻き込み、飽きさせないプレゼンがどのようなものなのか考えさせられた。ポスターセッションは先輩たちの発表の後だったので、自分なりに相手の反応に注意しながら発表をおこなえた。そのためとてもいい経験ができた。

○自分たちの班では「発電」をテーマにしたが、他の班でも方法は異なるが同じく「発電」をテーマにしており、アプローチの仕方に様々なものがあると感じた。

○自分たちの班は、研究に必要な情報をフィールドワークやインターネットを活用して深く調べることはできたものの、最終的に自分たちがその情報を通してどのように社会の中で活用していくかなどを考察するところまでには至らず、また自分たちで実験やシュミレーションを行うことができなかった。今後探究を進めていく際にそれらのことを念頭に掘り下げていければと思った。

○空いた時間などを活用して、何度か話し合いを通して、革新的内容を研究するのはなかなか難しかった。その分達成感があったが、もっと実験をしておけば良かったとも思えた。また、他の班の研究も面白いものが多く、中学生の話や、高2の英語発表も、とてもすごいと感じた。

○どのようにすれば自分の考えが相手に効果的に伝わるかを考える良い機会になり、探究していくことの楽しさを学べた。

○発表後の質問に対して答えるのに十分な知識がなかったので、ペアの人に任せきりになってしまった。事前に質問を予測した答えを用意しておくのと、グラフやポスターに載っている自分の知らない言葉はきちんと調べるようにしたい。

○質問を考えたり、自分たちの発表への質問に答えたりすることで新しい発見があり、新しい視点で考えることができて面白かった。高校生の発表は、自分たちの思いつかないようなテーマだったり、更に疑問を深掘りしたりしていて勉強になった。